

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立中百舌鳥中学校
校長 桜田 正明

中学校区におけるめざす子ども像

「生きる力をはぐくみ、はばたく子 ～学びの集団づくり～」・予測困難な社会において、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え判断して行動し、他者と協同しながら確かな学びに向けて努力できる。
・多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて根拠をもって自分の考えを相手にわかるよう正確に伝えることができる表現力を身につける。

令和5年度 重点目標

「学力・学びの基礎力・社会的実践力の育成」「指導方法の工夫改善と安全・安心な学びの場づくり」「人権教育推進による豊かな心の育成」「部活動の充実と活性化による健やかな体の育成」「小中一貫した教育の推進とめざす子ども像の共有」が、本校における教育課題であり、「生徒から信頼される教師、保護者から信頼される教育、地域から信頼される学校 ～チーム中百舌鳥を機能し【人間力】をはぐくむ～」が本年度の重点目標である。さらに、教育目標として『人権尊重の精神をふまえ知・徳・体 の調和のとれた豊かな人間形成』を図るため、家庭・地域との連携を深め「高い知性と創造性のある人間」「社会的連帯感を持ち、正しく行動できる人間」「強固な意志と体力をもつ人間」を育成することを目標としている。

「確かな学び」の現状

・令和4年度の学校教育アンケートの生徒への質問の中で「授業にまじめに（集中して）取り組んでいる」の肯定的回答が90%を上回り、「先生は、教え方を工夫している。（わかりやすく教えてくれている）」の肯定的回答が95%で、好結果を得ている。
・「課題（宿題）が出され、家庭学習が習慣になっている」の肯定的回答が70%で、静謐な環境での授業規律や学習習慣は確立されているが、家庭学習の習慣化と家庭学習に取り組む学習環境の形成が今後の課題である。

「豊かな心・健やかな体」の現状

・令和4年度の学校教育アンケートの保護者に対する質問の中で「道徳心や社会性が身につく正しい行動ができています」では、90%を上回る肯定的回答を得ている。また「先生は、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている」の肯定的回答は80%を上回っており、引き続き生徒たちの【豊かな心】の育成につなげていきたい。
・令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施もふまえ、部活動への入部率も高く、充実した取り組み（食育教育等）を進めているものの、全国の状況と比べると体力や運動能力については引き続き課題である。

| 大項目 | 中項目 | 具体目標 | 具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組) | 判断基準 (評価のものさし) | 評価方法 | 評価時期 | 進捗確認 (～12月) | 達成状況 (年度末) | | | |
|------------|-----------------------|---|--|-----------------------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|--|---|--|---|
| | | | | | | | | 自己評価 | 学校関係者評価 | | |
| 確かな学び | 学力向上 | 学力・学びの基礎力・社会的実践力の育成 | ★主体的な学びの向上と授業規律の確立による「総合的な学力」の育成 | 「授業にまじめに取り組んでいる」の肯定的評価を90%以上にする | 学校教育アンケート 各種アンケート等 | 年度末 | ◎ 年度末に向けてよく達成できている。 | ◎ | ・「私は授業にまじめに（集中して）取り組んでいる」の肯定的回答が90%である。 | ◎ | ・チャイム着席や授業準備の肯定的回答が高く、授業規律が確立されていると感じる。 |
| | | | 家庭学習の習慣化と家庭学習に取り組む意識向上や学習環境の形成 | 家庭学習に関する肯定的評価を70%以上にする | 学校教育アンケート 各種アンケート等 | 年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | ○ | ・「適当な量の宿題が出され、子どもは家庭学習を行っている」は70%を上回った。 | ○ | ・生徒と保護者間で、家庭学習についての認識の違いが表れている。 |
| | 授業改善 | 指導方法の工夫改善と安全・安心な学びの場づくり | ●生徒用端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の展開と課題解決力の育成 | 「先生はわかりやすく教えてくれる」の肯定的評価を90%以上にする | 学校教育アンケート 参観授業・実践報告 | 毎学期 および年度末 | △ 2学期末段階では十分達成できていない。 | ○ | ・「先生はわかりやすく教えてくれる」の肯定的評価が96%であるが、同時に生徒用端末の活用も進めていきたい。 | ○ | ・これまで以上に生徒用端末を活用した積極的な授業展開を進めてほしい。 |
| | | | 授業の工夫改善と参観フリーデーや授業参観（教育活動への参加）などの活性化 | 参観フリーデーや授業参観等、教育活動を参観する機会をより多く設ける | 学校教育アンケート 参観授業・実践報告 | 毎学期 および年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | ◎ | ・「学校は、教育活動を参観する機会をよく設けている」の肯定的回答が98%である。 | ◎ | ・これからも参観フリーデーの継続や教育活動を参観する機会を増やしてほしい。 |
| | | | 基礎基本の定着を図り、発展につながるための少人数（習熟度）指導や補充学習の充実 | 習熟度指導や補充学習を活用し、肯定的評価を90%以上にする | 学校教育アンケート 各種アンケート等 | 毎学期 および年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | ○ | ・「少人数授業は授業に集中しやすい」の肯定的回答が89%である。 | ○ | ・少人数指導（習熟度別指導）については基礎・発展につながる成果をもたらしていると感じている。 |
| 豊かな心・健やかな体 | 心の教育の充実 | 人権教育推進による豊かな心の育成 | ●いじめを許さない（いじめ見逃しゼロ）仲間づくりと多様性を認め合う教育環境づくり | 「先生は親身になって応じてくれる」の肯定的評価を90%以上にする | 学校教育アンケート 教育相談・調査報告 | 毎学期 および年度末 | ◎ 年度末に向けてよく達成できている。 | ○ | ・「先生は親身になって応じてくれる」の肯定的回答が86%である。 | ○ | ・SCの活用など、今後もカウンセリング環境の充実に取り組んでほしい。 |
| | | | 家庭・地域と連携し、子どもたちの【人間力】の醸成と自尊感情・自己肯定感の向上 | 「自分にはよいところがある」と答える肯定的評価を70%以上にする | 学校教育アンケート 実践報告 | 毎学期 および年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | ○ | ・「自分の良さを知り、自分が大切・自分が好きという気持ちをもっている」の肯定的回答が70%を上回っている。 | ○ | ・自己肯定感の醸成に向けて、学校行事等へ積極的な参加が進んでいる。 |
| | | | 正しい行動ができる道徳心・社会性の取得につながる「特別の教科 道徳」の推進 | 「正しい行動ができています」の肯定的評価を90%以上にする | 学校教育アンケート 実践報告 | 毎学期 および年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | ○ | ・「子どもたちは正しい行動ができています」の肯定的回答が91%である。 | ○ | ・「学校は社会のルールを守る態度を育てようとしている」（保護者回答）の肯定的回答が90%に達している。 |
| 体力向上 | 部活動の充実と活性化による健やかな体の育成 | 部活動による連帯感・達成感の向上と子どもたちの「人間育成」につながる指導充実 | 「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的評価を90%以上にする | 全国体力・運動能力、 運動習慣等調査等 | 年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | △ | ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答は80%である。 | △ | ・体力、技術の向上とともに連帯感や達成感を得ることによる人間力の形成に期待する。 | |
| | | 性教育（思春期教育）等の取り組みを通じて、かけがえない命の大切さの学び場づくり | 各学年でテーマを決めて実践し、肯定的評価を90%以上にする | 学校教育アンケート 実践報告 | 毎学期 および年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | ○ | ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」の肯定的回答が、生徒・保護者とも概ね90%に達している。 | ○ | ・性教育（思春期教育）や相談しやすい保健室の環境づくりを通して、多様性を学ぶ機会の充実にも取り組んでほしい。 | |
| 地域協働 | 相互連携 | 小中一貫した教育の推進とめざす子ども像の共有 | ★中学校区のめざす子ども像の実現と小中連携による「つながる教育」の活性化 | 小中合同研修や授業実践交流を通して、肯定的評価を90%以上にする | 学校教育アンケート 小中合同実践報告等 | 毎学期 および年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | ○ | ・「小中合同研修会により、共通理解が深まっている」の肯定的評価が80%である。 | ○ | ・小中合同研修や三校連絡会の実施とともに校区（地域）による連携を進めてほしい。 |
| | | | 学校の教育方針や教育活動についての確かな情報公開と発信の活性化 | 随時、学校ホームページや学校・学年だよりなどで情報発信に努める | 学校教育アンケート 各地域協議会報告等 | 毎学期 および年度末 | ○ 1・2学期ともに概ね達成できている。 | ◎ | ・「学校HP等で、教育活動をよく知らせている」の肯定的回答は96%である。 | ◎ | ・引き続き、学校ホームページなどで積極的な情報発信に努めてもらいたい。 |

校長より（年度末）

・コロナ禍以前の学校行事や取組等が復活していく中で迎えたスタートであったが、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が83%の結果を得ている。本校では教職員が指導方法の工夫改善に取り組み、生徒たちからも「先生は教え方を工夫している」の肯定的回答が96%に達し、成果をあげてきたと感じている。これからも生徒たちの人間関係の構築や学校生活に対する不安解消に向けて、日頃からの声掛けやカウンセリングの充実などを進めていきたいと考えている。今年度の課題（生徒用端末の積極的な活用等）を真摯に受け止め、より安心かつ安全な学校教育活動の実現に向けて、積極的に取り組んでいきたいと思う。

学校関係者評価者から（年度末）

・思春期特有の悩み（友人関係など）や相談（学習面など）には、学校と家庭が共通理解し、連携を進める必要があると認識している。
・コロナ禍による活動制限が解除されていく中、地域との関わりが復活していくことは非常に喜ばしいことである。